



五十嵐 健一郎
議員

質問 糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について伺います。

- (1)「プロフェッショナル人材」の地方還流及び専門家を活用した地域ブランド戦略の検討
- (2)商店街賑わい創出事業(中心市街地の活性化)及び駅南の活性化策
- (3)地方居住の本格推進(「お試し居住」を含む「二地域居住」の本格支援、住み替え支援)及び三世代同居・近居子育て環境向上に向けた取り組み
- (4)消防団の充実強化・ICT利活用による、住民主体の地域防災の充実

▼市長答弁

- (1)新商品開発などを行うためには、プロフェッショナル人材のノウハウの活用も手段の1つであると考えている。また、イメージや付加価値を高めていくことが地域ブランド戦略につながるので、糸魚川らしさの創出と魅力の情報発信を推進していく。
- (2)糸魚川広域商店街において、賑わいづくりの計画が策定されており、今後、事業の実施に向けて取り組んでいく。また、駅南の活性化策については、空地等が適切に活用されるよう、調査・研究していく。
- (3)移住や就業体験の実施により、Uターン、定住につなげていきたいと考えており、三世代同居や近居による子育てなどを支援することが重要と考えている。
- (4)消防団拠点化計画の推進や防災行政無線等の情報伝達手段を整備していく。



田原 実
議員

質問 糸魚川東小学校区を中心とする地域の課題、糸魚川市の対応について

糸魚川東小学校内の遊具「ひすいブリッジ」及び市内公共施設内に設置された遊具の安全性確保について伺う。また、押上「ひすい海岸」のジオパークにおける活用と整備について、(仮称)押上駅を核とした新しいまちづくりについて伺う。

▼市長答弁

「ひすいブリッジ」については、安全基準を満たしていないことから使用禁止にしていたが、早期に利用できるよう改修する予定にしている。また、公園等の遊具については、毎年、点検を実施している。

ひすい海岸については「海の魅力アップ推進計画」に基づき、地元の方と意見交換しながら整備を進めていきたいと考えており、新駅については利用者の利便性に考慮した整備や来訪者によるにぎわい創出効果を

を意識したまちづくりが必要であると考えている。

質問 新幹線開業への対応(その5)
観光スポットを巡るバスの活用、
バス会社との連携について

北陸新幹線開業に対応した路線バス、定期観光バス、シャトルバスその他の活用など市の対応について、糸魚川駅周辺の見所を巡るのに便利なバスの運行について伺う。

また、バスを活用したジオパークの学習、市内外の児童、生徒、学生が交流するバスツアーについて伺う。

▼市長答弁

糸魚川駅から観光施設への利便性・周遊性を高めるため、路線バスについて、「市街地循環線」「美山公園・博物館線」が通年運行されている。また、季節に応じて、市内を巡る定期観光バスや、観光施設への無料シャトルバスを運行している。

ふるさと糸魚川学習の1つとして、バスを利用して市内のジオサイトを見学・学習している。また、今年度、妙高市の小学校と市内の小学校が、バスを利用した交流事業を実施する予定である。